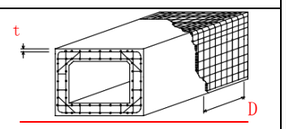
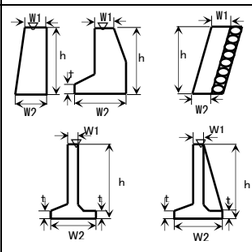
新：出来形管理基準(2019 年 04 月)	旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)	改訂内容
出来形管理基準 2019 年 04 月 ひと･まち･くらしをネットワーク 首都高速道路株式会社	出来形管理基準 ~~平成 30~~ 年 ~~7~~ 月 ひと･まち･くらしをネットワーク 首都高速道路株式会社	変更

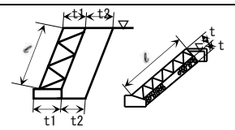
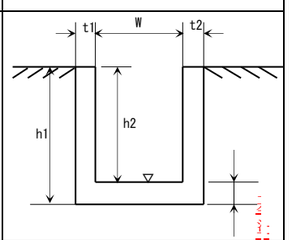
新：出来形管理基準(2019 年 04 月)	旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)	改訂内容
まえがき 本基準は平成 18 年 2 月に土木工事共通仕様書、土木材料仕様書、工事監督の手引き、及び各種設計・施工基準等により定めていた出来形管理基準をとりまとめ制定された。今般、各種要領等の改訂が行われていることから、本基準を改訂したものである。 主な改訂内容は、次の通りである。 1　一部工種について、関東地方整備局出来形管理基準を参考に設定した。 2019 年 04 月 技術企画課長	まえがき 本基準は平成 18 年 2 月に土木工事共通仕様書、土木材料仕様書、工事監督の手引き、及び各種設計・施工基準等により定めていた出来形管理基準をとりまとめ制定された。今般、各種要領等の改訂が行われていることから、本基準を改訂したものである。 主な改訂内容は、次の通りである。 1　~~当社舗装設計施~~工~~要領(平成 27 年 4 月)の内容を反映し~~、~~構成を見直した~~ ~~2　道路橋示方書(平成 29 年 11 月)との整合を図った。~~ ~~平成 30~~ 年 ~~7~~ 月 技術企画課長	**変更**

新：出来形管理基準(2019 年 04 月)

6. コンクリート構造物工

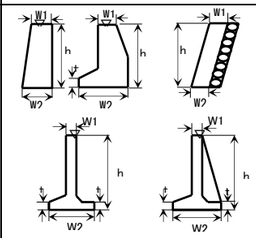
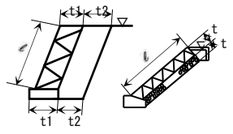
本管理基準は高速道路工事に適用するものであり、街路築造工事は、最終管理者基準に基づき構築する。

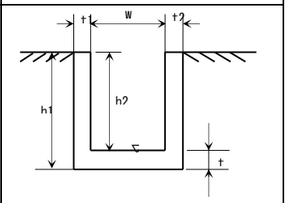
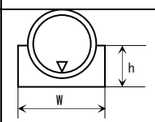
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート構造物（1） 共通	鉄筋の平均間隔　d	±φ	d=D/(n-1) D:n 本間の延長 n:10 本程度とする φ:鉄筋径 工事の規模に応じて、1 リフト、1 ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書(Ⅲコンクリート橋編 6.6)による。 注 1)重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 注 2)橋梁コンクリート床版桁(PC 橋含む)の鉄筋については、7.床版工を適用する。	
	鉄筋のかぶり　t	−10〜+20 かつ最小かぶり以上		
現場打コンクリート擁壁工	基準高さ　▽	±20	目地部ごとに測定する(出来形図表による) W1,W2,h,t に関しては妻型枠脱型時に必ず測定をしておく事	
	幅　W1,W2	−5〜+10		
	高さ　h	−20〜+30		
	厚さ　t	−5〜+20		
	延長　L L≦30m 30m＜L≦100m 100m＜L	±30 ±L／1000 ±100		

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート構造物（2） ブロック積 ブロック張 石積・石張	基準高さ　▽	±20	施工延長 20m に付き 1 箇所とする	
	厚さ　t_1 , t_2	±30		
	のり長　ℓ＜3m ℓ≧3m	±50 ±100		
	延長　L L≦30m 30m＜L≦100m 100m＜L	±30 ±L／1000 ±100		
側溝	基準高　▽	±10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、桝の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 30mにつき 1 箇所とする	
	幅　W	±10		
	高さ　h1,h2	±10		
	厚さ　t1,t2,t3	±10		
	長さ　L	−100		
管渠	基準高　▽	±10	目地間隔が 30m未満の	

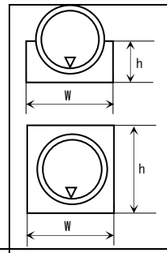
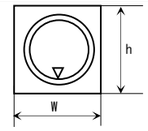
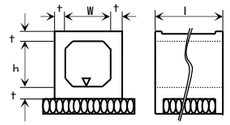
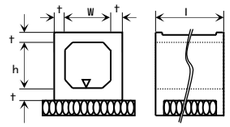
旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)

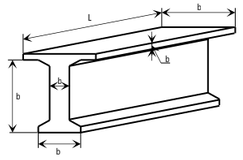
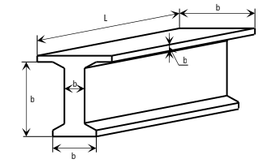
6. コンクリート構造物工

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート構造物（1） 共通	鉄筋のかぶり	−10〜+20 かつ最小かぶり以上		
現場打コンクリート擁壁工	基準高さ　▽	±20	目地部ごとに測定する（出来形図表による） W1,W2,h,t に関しては妻型枠脱型時に必ず測定をしておく事 ~~改定（案）比較表より~~	
	幅　W1,W2	−5〜+10		
	高さ　h	−20〜+30		
	厚さ　t	−5〜+20		
	延長　L L≦30m 30m＜L≦100m 100m＜L	±30 ±L／1000 ±100		
ブロック積 ブロック張 石積・石張	基準高さ　▽	±20	施工延長 20m に付き 1 箇所とする	
	厚さ　t_1 , t_2	±30		
	のり長　ℓ＜3m ℓ≧3m	±50 ±100		
	延長　L L≦30m 30m＜L≦100m 100m＜L	±30 ±L／1000 ±100		

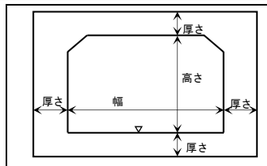
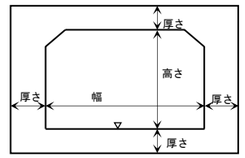
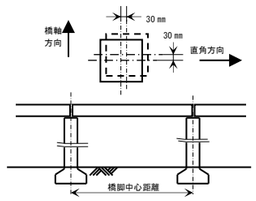
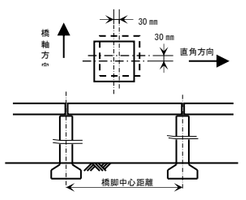
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準 ~~街路築造工事は、最終管理者基準に基づき構築する。~~ ~~尚、当資料は、高速道路工事に適用する。~~	摘要
工種	測定項目			
コンクリート構造物（2） 側溝	基準高	±10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、桝の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 30mにつき 1 箇所とする	 ~~都施工管理基準　国交省工事必携P 1-122 では-200~~
	幅　W	±10		
	高さ　h1,h2	±10		
	厚さ　t1,t2,t3	±10		
	長さ　L	−100		
管渠	基準高	±10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、桝の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 20mにつき 1 箇所とする	
	幅　W	±10		
	高さ　h	±10		

改訂内容
追加
変更
変更

新：出来形管理基準(2019 年 04 月)						旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)						改訂内容
		幅　W	±10	ときの測定箇所は、桝の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 20mにつき 1 箇所とする			長さ　L	-100		 都施工管理基準　　国交省工事必携 P 1-122 では-200	
		高さ　h	±10									
		長さ　L	-100									
	函渠	基準高　▽	±10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、桝等の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 20mにつき 1 箇所とする			基準高	±10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、桝等の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 20mにつき 1 箇所とする	施工管理基準　　国交省工事必携 P 1-122 では-200 	
		厚さ　t1, t2, t3, t4	±10				厚さ　t1, t2, t3, t4	±10				
		幅(内のり)　W	±10				幅(内のり)　W	±10				
		高さ　h1	±10				高さ　h1	±10				
		長さ　L	-100				長さ　L	-100				

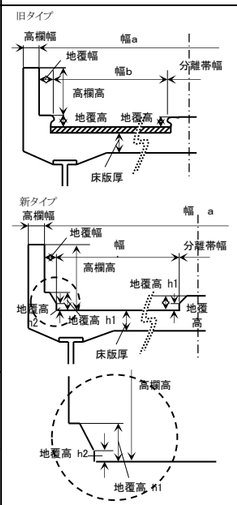
測定対象			規格値(単位㎜)	管理基準	摘要	測定対象			規格値(単位㎜)	管理基準	摘要	変更
工種		測定項目				工種		測定項目				
コンクリート構造物（3）	コンクリート桁及びプレストレストコンクリート桁	長さ　L L≦13m 13m＜L≦21m 21m＜L	±10 ±L/1000 ±30			コンクリート構造物（3）	コンクリート桁及びプレストレストコンクリート桁	長さ　L	L≦13m~~＝10~~ ~~1~~3m＜L≦21m~~＝L/1000~~ 21m＜L~~＝30~~			
		断面寸法　b b≦1m 1m＜b	±5 ±10					断面寸法　b	~~b ≦1m~~　±5 ~~1m＜b~~　±10			
		横方向のたわみ	(1.5L-6)㎜　L=m ただし、10 ㎜を超えてはならない					横方向のたわみ	(1.5L-6)㎜　L=m ただし、10 ㎜を超えてはならない			
		主桁間隔	±20					主桁間隔	±20			
	掘割構造物及び半地下擁壁構造物	防水マット及び防水シート 継手のラップ幅　W	W≧100				掘割構造物及び半地下擁壁構造物	防水マット及び防水シート 継手のラップ幅　W	W≧100			

測定対象			規格値(単位㎜)	管理基準	摘要	測定対象			規格値(単位㎜)	管理基準	摘要	変更
工種		測定項目				工種		測定項目		~~街路築造工事は、最終管理者基準に基づき構築する。~~ ~~尚、当資料は、高速道路工事に適用する。~~		
コンクリ	トンネル	基準高　▽	±20	施工ブロック端部毎に測定する		コンクリ	トンネル	基準高▽	±20	施工ブロック端部毎に測定する		

新：出来形管理基準(2019 年 04 月)						旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)						改訂内容
		幅	0～+30	クラック展開図、打撃試験、鉄筋カブリ探査試験については出来形図による			幅	0～+30	クラック展開図、打撃試験、鉄筋カブリ探査試験については出来形図による		
		高さ	0～+30				高さ	0～+30				
		躯体の厚さ	±10				躯体の厚さ	±10				
		長さＬ	−100				長さＬ	−100				
	橋脚	変位	橋軸方向、直角方向とも ±30				橋脚	変位	橋軸方向、直角方向とも ±30			
		橋脚中心距離	±30 ただし、支承が支障なく 設置できる場合に限る				橋脚中心距離	±30 ただし、支承が支障なく 設置できる場合に限る				
												（略）

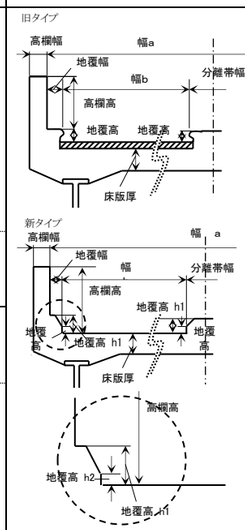
新：出来形管理基準(2019 年 04 月)

7. 床版工

測定対象 工種	測定対象 測定項目	規格値(単位㎜)	管理基準	摘要
床版工（1） 床版	鉄筋のかぶり	設計かぶり以上	１径間あたり両端と中央部の３点の主桁間を形枠・配筋後に測定	
	鉄筋の有効高さ	±10		
	床版の厚さ	＋10		
	鉄筋間隔	±20	1 径間当たり 3 ヶ所(両端及び中央) 測定。 1 ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2m の範囲を測定。	
	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10		
	平坦性	±10	床版工事及び舗装工事の出来形図表による	
高欄	鉄筋のかぶり	±5 かつ最小かぶり以上	１径間あたり両端と中央部の３点の主桁間を形枠・配筋後に測定	
	鉄筋間隔	±20	主筋について、1 径間当たり 3 ヶ所(両端及び中央) 測定。	
	高欄の幅	-5～＋10	１径間あたり両端と中央部の３箇所測定	
	高欄の高さ	±10		
	地覆の幅	+10～−10 ただし建築限界を犯さないこと		
	地覆の高さ　h1	+20～−10 ただし建築限界を犯さないこと		
	地覆の高さ　h2	+20～−10 ただし建築限界を犯さないこと		
	建築限界	建築限界を犯さないこと	曲線部は横断勾配の最大部分で検証する	道路構造令による

旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)

7. 床版工

測定対象 工種	測定対象 測定項目	規格値(単位㎜)	管理基準	摘要
床版工（1） 床版	鉄筋のかぶり	設計かぶり以上	１径間あたり両端と中央部の３点の主桁間を形枠・配筋後に測定	
	鉄筋の有効高さ	±10		
	床版の厚さ	＋10		
	平坦性	±10	床版工事及び舗装工事の出来形図表による	
高欄	鉄筋のかぶり	±5 かつ最小かぶり以上	１径間あたり両端と中央部の３点の主桁間を形枠・配筋後に測定	
	高欄の幅	-5～＋10	１径間あたり両端と中央部の３箇所測定	
	高欄の高さ	±10		
	地覆の幅	+10～−10 ただし建築限界を犯さないこと		
	地覆の高さ　h1	+20～−10 ただし建築限界を犯さないこと		
	地覆の高さ　h2	+20～−10 ただし建築限界を犯さないこと		
	建築限界	建築限界を犯さないこと	曲線部は横断勾配の最大部分で検証する	道路構造令による

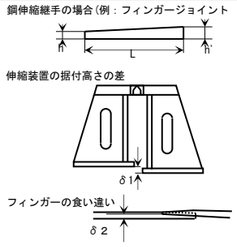
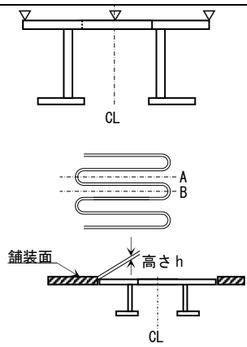
改訂内容

追加

（略）

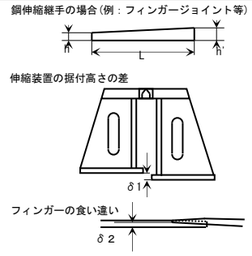
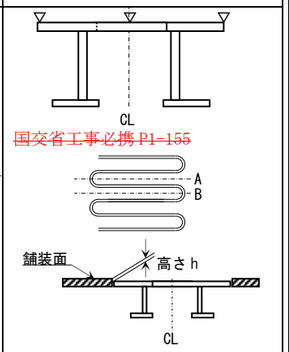
新：出来形管理基準(2019 年 04 月)

9. 上部工

測定対象 工種	測定対象 測定項目		規格値(単位㎜)	管理基準	摘要
上部工(2)(伸縮継手)	伸縮継手(仮組時精度)	長さ　L	0～30	測定箇所 伸縮継手については、一般図にある主要寸法を測定する	鋼伸縮継手の場合(例：フィンガージョイント 
		高さ　h，h’	δ＝±0.5		
		組合せる伸縮装置の高さの差 δ1	設計値±4		
		フィンガーの食い違い δ2	2		
	伸縮継手(ゴム)	据付高さ	舗装面に対し-3<h<3	両端及び中央部付近を測定	
		表面の凸凹	3		
		仕上げ高さ	舗装面に対し-3<h<3		
	伸縮継手(鋼製)	高さ　据付高さ	±3	高さは車道端部、中央部各 3 点計 9 点	
		高さ　相対差	3		
		表面の凸凹	3		
		縦方向間隔	±2	縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計 3 点	
		横方向間隔	±5		
		歯型板面に歯咬み合い部の高低差	2		
		仕上げ高さ h	舗装面に対し -3<h<3		

旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)

9. 上部工

測定対象 工種	測定対象 測定項目		規格値(単位㎜)	管理基準	摘要
上部工(2)(伸縮継手)	伸縮継手(仮組時精度)	長さ　L	0～30	測定箇所 伸縮継手については、一般図にある主要寸法を測定する ~~国交省工事必携 P1-390~~ ~~都施工管理基準 P50~~	鋼伸縮継手の場合(例：フィンガージョイント等) 
		高さ　h，h’	δ＝±0.5		
		組合せる伸縮装置の高さの差 δ1	設計値±4		
		フィンガーの食い違い δ2	2		
	伸縮継手(ゴム)	据付高さ	舗装面に対し ~~0～-2~~	両端及び中央部付近を測定 ~~国交省工事必携 P1-164,152~~	
		表面の凸凹	3		
		仕上げ高さ	舗装面に対し ~~0～-2~~		
	伸縮継手(鋼製)	高さ　据付高さ	±3	高さは車道端部、中央部各 3 点計 9 点	 ~~国交省工事必携 P1-155~~ ~~国交省工事必携 P164~~
		高さ　相対差	3		
		表面の凸凹	3		
		縦方向間隔	±2	縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計 3 点	
		横方向間隔	±5		
		歯型板面に歯咬み合い部の高低差	2		
		仕上げ高さ	舗装面に対し ~~0～-2~~		

改訂内容

変更

（略）

（略）

新：出来形管理基準(2019 年 04 月)

10. 舗装工

工種		測定項目		個々の測定値	10 個の測定値の平均 X10	X6	X3	管理基準	摘要
舗装工(1)	下層路盤(クラッシャラン)	基準高		±40 以内				20m ごとに 1 箇所※1(原則として測点で測定)	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること厚さの規格値は各層に対するものであるので、舗装の総厚の平均値は、設計値を満足するように管理する
		厚さ		-45 以上				20m ごとに 1 箇所※1(原則として測点で測定)	
		幅		-50 以上				40m ごとに 1 箇所※1(原則として測点で測定)	
		締固め度		管理データによる場合	抜取検査による場合				
				93%以上	95%以上	96%以上	97%以上		
	上層路盤 再生粒度調整砕石	厚さ		-25 以上				20m ごとに 1 箇所※1(原則として測点で測定)	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること
		幅		-50 以上				100m ごとに 1 箇所※1(原則として測点で測定)	
		締固め度		93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上		
	上層路盤 セメント・石灰安定処理混合物	厚さ		-25 以上					
		幅		-50 以上					
		締固め度		管理データによる場合	抜取検査による場合				
				93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上		
		粒度(%)	2.36	±15 以内	±10 以内	±9.5 以内	±8.5 以内	1～2 回／日	
			75μm	±6 以内	±4 以内	±4 以内	±3.5 以内		
		セメント・石灰量(%)		±1.2 以内	-0.8 以上	-0.8 以上	-0.7 以上		
	上層路盤 アスファルト安定処理混合物	厚さ		-15 以上				1000m² ごとに 1 箇所※1	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること
		幅		-50 以上				100m ごとに 1 箇所※1(原則として測点で測定)	
		締固め度		管理データによる場合	抜取検査による場合			アスファルト処理混合物層の締固め度は 1,000 m²に 1 組(3 個以上/1 組)	
				93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上		
		粒度(%)	2.36	±12 以内					粒度・アスファルト量の規格値は、配合設計の値に対するものである
			75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)		±0.9 以内					

※1:施工範囲内起終点および中心部の 3 箇所は必ず測定する。

旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)

10. 舗装工

工種		測定項目		個々の測定値	10 個の測定値の平均 X10	X6	X3	管理基準	摘要
舗装工(1)	下層路盤(クラッシャラン)	基準高		±40 以内				20m ごとに 1 箇所(原則として測点で測定)	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること厚さの規格値は各層に対するものであるので、舗装の総厚の平均値は、設計値を満足するように管理する
		厚さ		-45 以上	~~-15 以上~~			20m ごとに 1 箇所(原則として測点で測定)	
		幅		-50 以上				40m ごとに 1 箇所(原則として測点で測定)	
		締固め度		管理データによる場合	抜取検査による場合				
				93%以上	95%以上	96%以上	97%以上		
	上層路盤 再生粒度調整砕石	厚さ		-25 以上	~~-8 以上~~			20m ごとに 1 箇所(原則として測点で測定)	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること
		幅		-50 以上				100m ごとに 1 箇所(原則として測点で測定)	
		締固め度		93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上		
	上層路盤 セメント・石灰安定処理混合物	厚さ		-25 以上	~~-8 以上~~				
		幅		-50 以上					
		締固め度		管理データによる場合	抜取検査による場合				
				93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上		
		粒度(%)	2.36	±15 以内	±10 以内	±9.5 以内	±8.5 以内	1～2 回／日	
			75μm	±6 以内	±4 以内	±4 以内	±3.5 以内		
		セメント・石灰量(%)		±1.2 以内	-0.8 以上	-0.8 以上	-0.7 以上		
	上層路盤 アスファルト安定処理混合物	厚さ		-15 以上	~~-5 以上~~				面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること
		幅		-50 以上					
		締固め度		管理データによる場合	抜取検査による場合				
				93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上		
		粒度(%)	2.36	±12 以内				~~「舗装設計施工基準」による アスファルト混合物層、アスファルト処理混合物層の厚さ及び締固め度は 1,000 m²に 1 組(3 個以上/1 組)~~	粒度・アスファルト量の規格値は、配合設計の値に対するものである
			75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)		±0.9 以内					

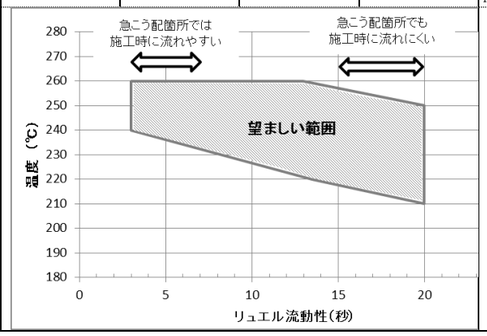
改訂内容

変更

追加

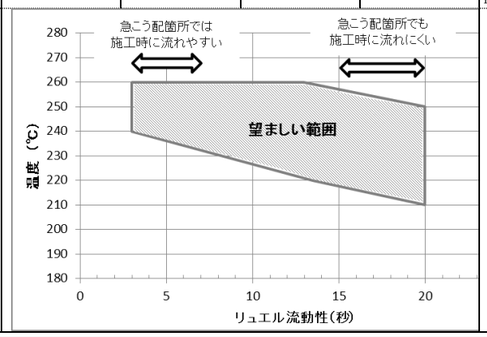
新：出来形管理基準(2019 年 04 月)									旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)									改訂内容
測定対象			規格値(単位㎜)				管理基準	摘要	測定対象			規格値(単位㎜)				管理基準	摘要	変更
工種		測定項目	個々の測定値	平均値	X6	X3			工種		測定項目	個々の測定値	~~10 個の測定値の~~平均 ~~X10~~	X6	X3			
舗装工(2)	基層	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m※1		舗装工(2)	基層	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m		
		幅		-25 以上			1 箇所/20m※1				幅		-25 以上			1 箇所/20m		
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日 基層及び表層は「床版工事及び舗装工事の出来形図表」による				粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日 基層及び表層は「床版工事及び舗装工事の出来形図表」による		
		粒度(%) 75μm	±5 以内								粒度(%) 75μm	±5 以内						
		アスファルト量(%)	±0.9 以内								アスファルト量(%)	±0.9 以内						
	表層(小粒径ポーラスアスファルト混合物・半たわみ性舗装以外)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m※1			表層(小粒径ポーラスアスファルト混合物・半たわみ性舗装以外)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m		
		幅		-25 以上			1 箇所/20m※1				幅		-25 以上			1 箇所/20m		
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内								粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内						
		粒度(%) 75μm	±5 以内								粒度(%) 75μm	±5 以内						
		アスファルト量(%)	±0.9 以内								アスファルト量(%)	±0.9 以内						
		平坦性	3m プロフイルメーター：δ2.4 ㎜以内				1 測線/車線（標準偏差）				平坦性	3m プロフイルメーター：δ2.4 ㎜以内				1 測線/車線（標準偏差）		
※1:施工範囲内起終点および中心部の 3 箇所は必ず測定する。																		追加

新：出来形管理基準(2019 年 04 月)

測定対象			規格値(単位㎜)				管理基準	摘要
工種		測定項目	個々の測定値	平均値	X6	X3		
舗装工(3)	表層(小粒径ポーラスアスファルト混合物)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m※1	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m※1	
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日	
		粒度(%) 75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
		平坦性	3mプロフィルメーター：δ2.4 ㎜以下				1 測線/車線（標準偏差）	
		現場透水量(秒/400ml)		8.5 以下			1 箇所/100m※1	
		すべり抵抗値	BPN≧60				1 箇所/100m※1	
	グースアスファルト舗装工	厚さ	-9 以上	-3 以上			1 箇所/20m※1	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m※1	
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日	
		粒度(%) 75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)	±0.9 以内				ストレートアスファルト 20/40：印字記録 TLA：空袋検収	
		リュエル流動性					クッカ 1 台当たり 1 回	

※1:施工範囲内起終点および中心部の 3 箇所は必ず測定する。

旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)

測定対象			規格値(単位㎜)				管理基準	摘要
工種		測定項目	個々の測定値	~~10 個の測定値の~~平均 ~~※10~~	X6	X3		
舗装工(3)	表層(小粒径ポーラスアスファルト混合物)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m	
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日	
		粒度(%) 75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
		平坦性	3mプロフィルメーター：δ2.4 ㎜以下				1 測線/車線（標準偏差）	
		現場透水量(秒/400ml)		8.5 以下			1 箇所/100m	
		すべり抵抗値	BPN≧60				1 箇所/100m	
	グースアスファルト舗装工	厚さ	-9 以上	-3 以上			1 箇所/20m	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m	
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日	
		粒度(%) 75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)	±0.9 以内				ストレートアスファルト 20/40：印字記録 TLA：空袋検収	
		リュエル流動性					クッカ 1 台当たり 1 回	

改訂内容

変更

追加

新：出来形管理基準(2019 年 04 月)

測定対象			規格値(単位㎜)				管理基準	摘要
工種		測定項目	個々の測定値	平均値				
舗装工(4)	表層(半たわみ性舗装)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m※1	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m※1	
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日	
		粒度(%) 75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
		フロー値	9～14 秒					
		路面の平坦性	3m プロフイルメーター：δ2.4 ㎜以内				1 測線/車線(標準偏差)	
		すべり抵抗値(伸縮継手前後)	BPN60 以上				全伸縮装置	
		すべり抵抗値(上記以外)	DFT μ80≧0.35				1 箇所/100m※1	
	路肩部	舗装総厚	80±5 ㎜以内				1 箇所/20m※1	
		勾配	8.5±1%以内				1 箇所/20m※1	

※1:施工範囲内起終点および中心部の 3 箇所は必ず測定する。

旧：出来形管理基準(平成 30 年 07 月)

測定対象			規格値(単位㎜)				管理基準	摘要
工種		測定項目	個々の測定値	~~10 個の測定値の~~平均 ~~¥10~~				
舗装工(4)	表層(半たわみ性舗装)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m	
		粒度(%) 2.36 ㎜	±12 以内				1～2 回／日	
		粒度(%) 75μm	±5 以内					
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
		フロー値	9～14 秒					
		路面の平坦性	3m プロフイルメーター：δ2.4 ㎜以内				1 測線/車線(標準偏差)	
		すべり抵抗値(伸縮継手前後)	BPN60 以上				全伸縮装置	
		すべり抵抗値(上記以外)	DFT μ80≧0.35				1 箇所/100m	
	路肩部	舗装総厚	80±5 ㎜以内				1 箇所/20m	
		勾配	8.5±1%以内				1 箇所/20m	

改訂内容

変更

追加